

旅する△サビ

in大山

今回、鳥取県立博物館の「アーティストの世界に触れてみよう!」という教育普及活動により、「旅する△サビ」が大山町で実現しました。武蔵野美術大学の先生と学生の協力で、まさにアーティストの世界に直接触れる体験となりました。

名和中学校では、学生の作品を鑑賞する授業を3年生が受けました。本物の作品から、「何が」「どのように」表現され「どう感じる」のかを、生徒は探るようになっていまし



▲美術大学生の作品を鑑賞

た。そして、作品から感じ取ったことを言葉にして味わっていました。その後、作者(学生)から作品の制作意図やエピソードを聞き、より深く作品の世界を感じ取ることができていたようです。

【名和生徒の感想から】

・ 作品を鑑賞して、みんなの意見を交換していくうちに、発表することが楽しくなりました。
・ 自分の気持ちを表現するのは、こんなにも方法があるのだと、表現の自由を実感しました。

大山中学校では「黒板ジャック」という、衝撃的なアートイベントが仕組みられました。月曜日の朝、登校すると、「教室の黒板全面に素晴らしい絵が描かれている!」というものです。

何も知らず教室に入り、目を丸くする生徒、きらきらと目を輝かせて教室を見て回る

生徒など、楽しそうな雰囲気が出立ち込め、すっかり黒板アートに魅せられていました。



▲黒板ジャックに歓声

【大山中学生の感想から】

・ びっくりしました!教室に入ったらいつもより華やかで、きれいな夕焼けが描かれていて、涙が出そうでした。
・ チョークだけであんなに立体的な絵が描けることにも驚いたし、とても迫力がありました。
・ フォリテイが高く、迫力があって、学校が美術館のように感じました。

小さなつぶやき、大きな歓声・・・中学生たちにとって、生の作品からたくさん感動をもらうという、素敵な体験になりました。

絵本で育つ!「子どもの豊かな心」

名和さくらの丘保育園

名和さくらの丘保育園では、「元気なからだ」と「豊かな心」を育てることを保育テーマとしてさまざまな活動を行っています。

子どもの体や脳の基礎は2歳までに作られると言われます。大山町では就学前児童の8割以上が保育所入所を希望され、保育所が担う役割は大きいと感じています。

子どもが2歳になるまでに簡単な会話や読み聞かせをすることで、五感を伸ばし、自立神経を育てます。

名和さくらの丘保育園では、家庭での読み聞かせや、保育士にも役立つ読書活動をすすめるため、山陰こどものとも社代表の末宗辰彦さんを招いて、メディアとの関わり方や、恐ろしさについて話を聞いたり、おすすめの絵本を展示したりしました。また、普段の絵本の読み聞かせの様子やエピソードの募集をしたところ、予想以上に反響があり、保護者の皆さんの絵本への関心の

高さを実感しました。

子どもたちは、読み聞かせを通して想像力や言葉を聞く力を育てるだけでなく、親の心、愛情まで感じとります。子どものつぶやきや、話しかけ、楽しさを共有することで、子どもたちの豊かな心が育まれていきます。

名和さくらの丘保育園では、子どもたちの興味や関心のあるお話の世界を立体的(共同製作)に表現したり劇遊びで表現したりして楽しんでいきます。そして今年度は、全園児が世界にたった一つだけの自分の絵本を作成しました。子どもたちの発想や想像力の奥深さに感動しました。



▲年齢が小さい子どもたちも読み聞かせが大好き